

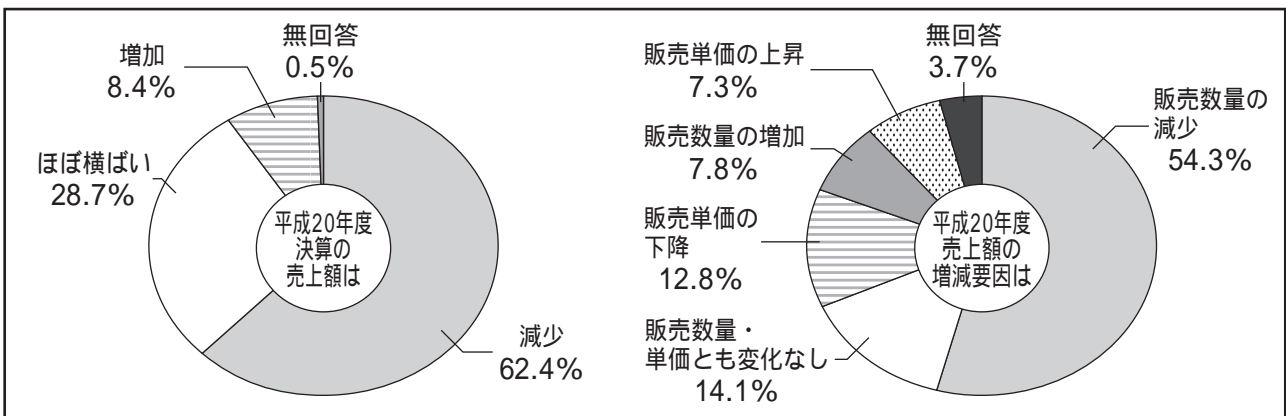
「平成20年度の決算状況等について」

日本銀行盛岡事務所が発表した3月の県内の短観によると、企業の業況判断指数(DI)は全産業で前回のマイナス25からマイナス46と21ポイント悪化となりました。業況はさらに下降傾向にある中、中小の経営者の皆様に「平成20年度の決算状況等について」をお聴きいたしました。(回答数383先)

平成20年度決算の売上額は・・・「減少」が62.4% 売上額の増減要因は・・・「販売数量の減少」が54.3%

「平成20年度決算の売上額は、平成19年度に比べおおよそどのようになった、もしくは、なると見込んでいますか」については、「減少」が62.4%と最も回答が多く、次いで「ほぼ横ばい」が28.7%となり、「増加」の回答は8.4%となりました。

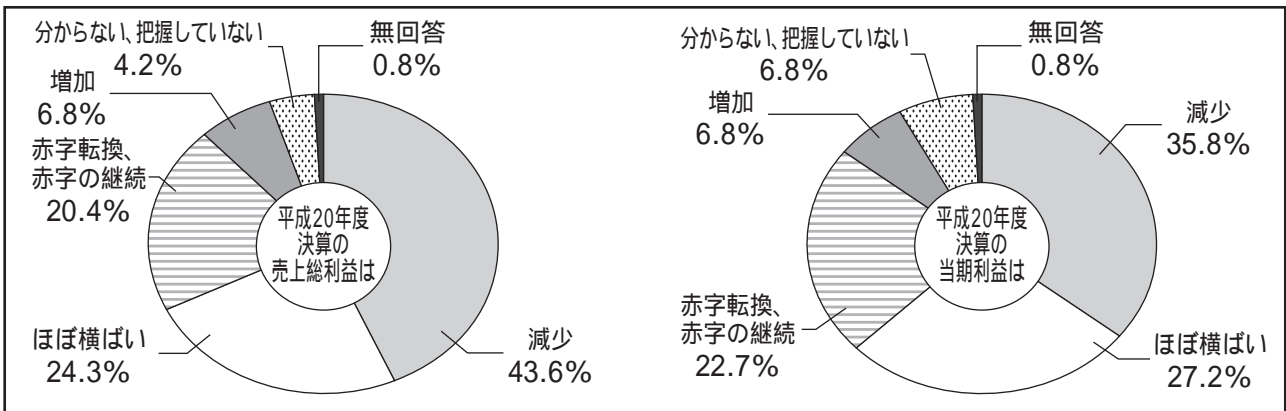
「平成20年度の売上額の増減に、最も大きな影響を及ぼしている要因は、販売数量の増減と販売単価の上昇・下降のいずれですか」については、「販売数量の減少」が54.3%と最も回答が多く、次いで「販売数量・単価とも変化なし」が14.1%、「販売単価の下降」が12.8%、「販売単価の増加」が7.8%、「販売単価の上昇」が7.3%、「販売数量の増加」が7.8%、「販売数量・単価とも変化なし」が14.1%、「販売単価の増加」が7.8%、「販売単価の上昇」が7.3%となりました。



平成20年度決算の売上総利益は・・・「減少」が43.6% 当期利益は・・・「減少」が35.8%

「平成20年度決算の粗利(売上総利益)は、平成19年度に比べておおよそどのようになった、もしくは、なると見込んでいますか」については、「減少」が43.6%と最も回答が多く、次いで「ほぼ横ばい」が24.3%、「赤字転換、赤字の継続」が20.4%となり、「増加」が6.8%、「分からない、把握していない」が4.2%となりました。

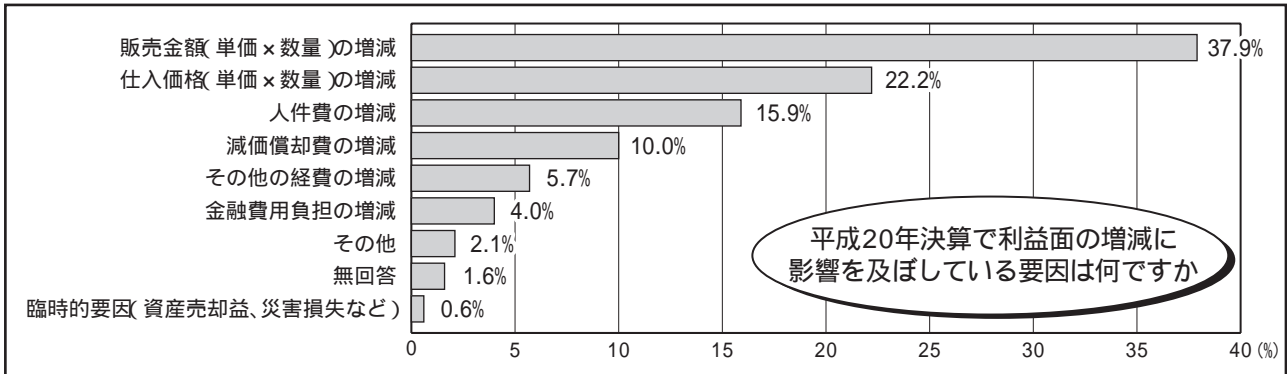
「平成20年度決算の当期利益は、平成19年度に比べておおよそどのようになった、もしくは、なると見込んでいますか」については、「減少」が35.8%と最も回答が多く、次いで「ほぼ横ばい」が27.2%、「赤字の転換、赤字の継続」が22.7%となり、「増加」と「分からない、把握していない」が6.8%となりました。



平成20年度決算で利益面の増減要因は

・・・「販売金額(単価×数量)の増減」が37.9%

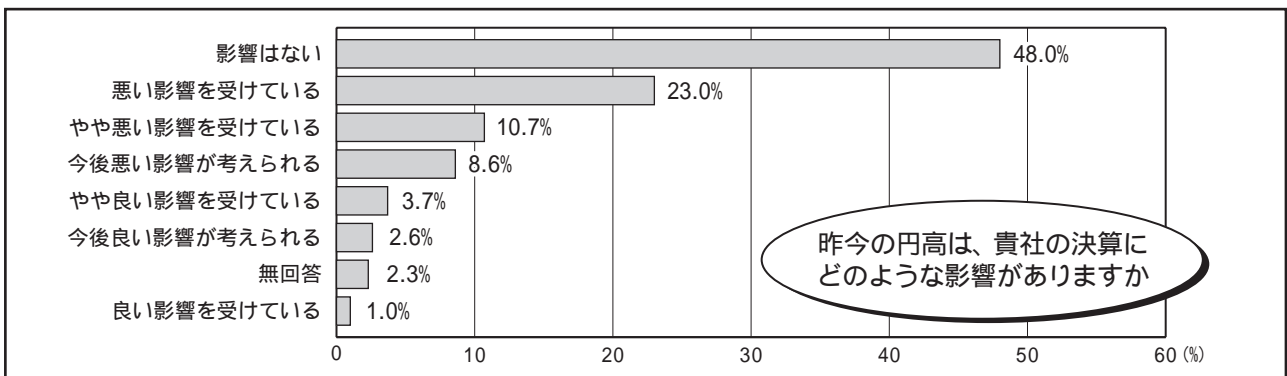
「平成20年決算で利益面の増減に影響を及ぼしている要因は何ですか」については、「販売金額(単価×数量)の増減」が37.9%と最も回答が多く、次いで「仕入価格(単価×数量)の増減」が22.2%、「その他の経費の増減」が15.9%、「人件費の増減」が10.0%、「金融費用負担の増減」が5.7%、「減価償却費の増減」が4.0%、「臨時的要因(資産売却費、災害損失など)」が0.6%となりました。



昨今の円高による、決算への影響は

・・・「影響はない」が48.0% <複数回答>

「昨今の円高は、決算にどのような影響がありますか」については、「影響がない」が48.0%と最も回答が多く、次いで「悪い影響を受けている」が23.0%、「やや悪い影響を受けている」が10.7%、「今後悪い影響が考えられる」が8.6%と4割強が悪い影響と回答しています。一方「やや良い影響を受けている」が3.7%、「今後良い影響が考えられる」が2.6%、「良い影響を受けている」が1.0%と良い影響の回答は1割弱となりました。



今後の人員についての対応計画は

・・・「現状の人員は維持する」が67.4%

「今後の人員についてどのように対応する計画ですか」については、「現状の人員は維持する」が67.4%と最も回答が多く、次いで「未定」が11.2%となりました。また「正社員を減らす」が9.1%、「パート・アルバイトを減らす」が4.2%と1割強が減らすと回答しています。一方「正社員を増やす」が3.7%、「パート・アルバイトを増やす」が2.3%と1割弱が増やすと回答しています。

